地域インフラの役割、歴史を伝えよう－文化財登録からまちづくりへ

土木・環境しなの技術支援センター　理事長　古本　吉倫

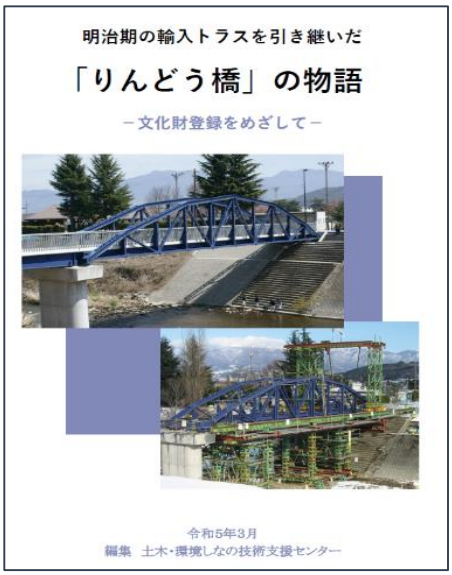
1　研究事業の背景

第 27 回助成事業で進めたインフラの文化財評価支援活動をさらに発展させ、本事業では次の目標を目指した。

・文化財登録の促進
・地域に文化財の価値を広める

事業の背景であるが、上田市のりんどう橋の歴史や技術などをまとめた「りんどう橋報告書」を 2023 年 5 月に上田市へ寄贈し、上田市はそれを基にりんどう橋を国登録有形文化財の申請を行い、2024 年 3 月に登録となった。

りんどう橋の報告書を自主的に作成し、上田市へ寄贈し、文化財登録を働きかける。



上田市主催の文化財登録祈念講演会 2024 年 3 月

りんどう橋のデザインを指導した**佐々木葉早稲田大学教授の講演**

橋の歴史と魅力を地域へと広げる活動となる。

登録を記念して、上田市は同年 3 月にりんどう橋のある上田市丸子地域で講演会を実施したが、当センターは共催者として取り組み、講演会での発表など一定の役割を果たした。

りんどう橋は地域に親しまれた遺産か

りんどう橋で復元されたトラス橋は、上田市大屋と丸子地域を結ぶ私鉄路線に架かっていた橋で、鉄道廃線後、道路橋（大石橋）になり、地域で 60 年以上にわた

千曲川にかかっていた大石橋

り、交通を支えてきたことから、地域に親しまれていた。千曲川の水害で落橋した後、その部材を保管した橋梁会の協力により、トラス橋を復元しようとした行政（旧丸子町、上田市）の取り組みが行われ、旧丸子町のグランドへ架かる橋として復元利用されることとなり、歴史橋梁の復元の取り組みにつながった点が評価される点となっている。

2　第 29 回事業の概要と実施状況

本事業では次の３つの内容を実施することを目指した。

①文化財となったりんどう橋のパンフレットの作成と配布

②上田地域の橋の魅力を伝える橋カカードの作成と配布

③上田地域の橋巡りツアーの実施（インフラの活用）

それぞれについて説明する。

（1）パンフレットの作成、配布

・りんどう橋の歴史と特徴を簡潔に伝える資料を目指す。

・土木遺産として、文化財になった橋の歴史や特徴を伝える資料作り民にわかりやすい資料作りを目指した。

・作成にあたり、市役所の担当部局やりんどう橋の架橋に関わった関係者の意見を反映させた。

（施工者の技術者木下潔氏、デザインを指導された佐々木早稲田大学教授、設計担当者など）

その結果、添付のような A4 サイズの三つ折り、裏面は橋の特徴を表す青焼き図面とし、3000 部作成した。

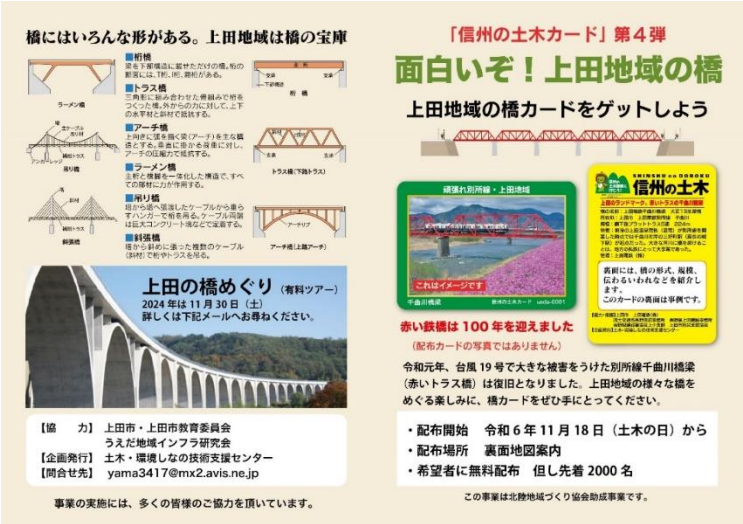
＊パンフレットの配布

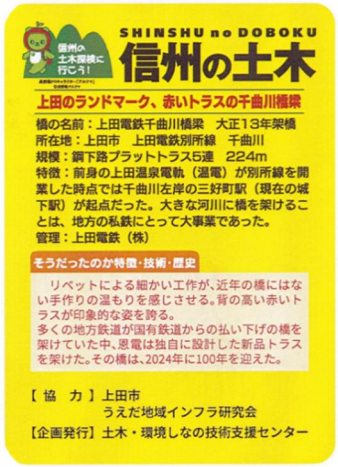
上田市（丸子地域建設課）の協力により、次の３箇所で配布している。

①丸子地域自治センター窓口

②丸子公民館

③農産物直場所「あさつゆ」の店舗





上田地域の橋カード（4橋）と フォルダーを兼ねたチラシ

（2）上田地域の橋カードの作成・配布

上田地域には多様な橋があることから、橋の紹介と橋のある地域巡りの仕掛けとして橋カードを作成した。

①りんどう橋
②上田電鉄千曲川橋りょう
③上田城二の丸橋
④塩野神社屋根付き橋

カードの枚数は各2000枚

カード配布のカードを収めるフォルダーをかねてPRするチラシを作成した。（枚数3000部）

配布については、それぞれの橋のある場所の近くにある上田市の観光施設などへ依頼して行っている。

（別所線上田駅、上田市観光会館、博物館、丸子公民館、あいそめの湯など）

（3）橋巡りのツアーの実施

橋を観光に活かす一橋巡りツアーの試みとして、バス事業者へ参加者募集型ツアーを依頼した。

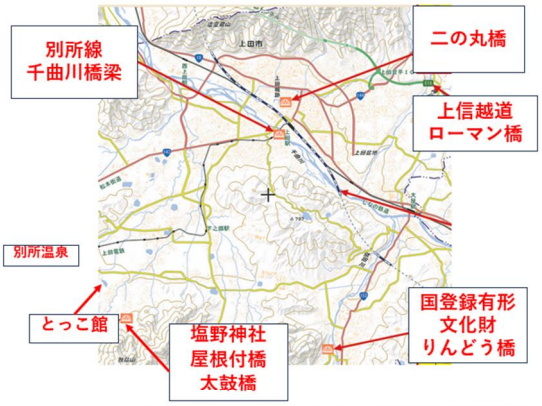
しかし、参加申込者が少数であったことから、内容を変更して、モニターツアーとして実施し、次の参加者で実施した。

・ツアー申込者
・観光関係の担当者（行政含）
・大学の研究者（長野大学）
・市民からモニター希望者

説明者は、当センターと長野大学学生により、計23名で実施した。

アンケート結果の概要を表に示すが、現地で説明があるので、わかりやすい、橋の魅力がわかったとの声が多かった。橋巡りもツアーとしての観光価値はあることが確認出来た。また、食事は地元でつくられているお弁当を用意したが。これも工夫の余地があった。

橋巡りツアーの状況、見学箇所



募集型ツアーの実施にはPRの工夫、価格設定などについて多くの意見があった。

橋以外のインフラをみたいとの声もあるので、今後に活かせるアンケートが集約できた。

表　モニターツアー参加者のアンケート結果の概要

モニター項目	モニター回答		今後への対応
案内の説明	道具を使うなど工夫されていてわかりやすかった	説明を聞いて見学すると橋の魅力がより理解できた	説明の方法は相手にわかりやすくする方法が必要
	学生の説明は好感を持てたが、もう少し詳しく	橋の工事などに関わった人の説明は特徴などがわかりやすかった	様々な確度から説明できる体制作り 説明用資料作りが大切
他のインフラへの興味	橋も魅力的だが、他のダムや砂防なども対象としたら		インフラへの関心があるが。どうツアーとして取り組めるか
ツアーの宣伝	SNS、新聞、ネット 国交省のインフラーツアーサイトへの掲載が遅れた 観光関係者への働きかけが弱かった	SBNSの活用は不可欠であるが、広げる要素が必要か	今回対応が遅れてWEBやSNSの利点を活かしていない。 広報を早くから取り組むこと
ツアーの値段	安い方がよいが、 5000位が上限か （安い方がよい）	食事などとセットにするなど割安感が出せれば少し高くても	当初7,000円募集したが、初めての取り組みとしては高すぎたか？ バス代が高くなっており、設定が難しい。